

『四法語』校本

竹越 孝

<凡例>

- ・本稿は、李氏朝鮮時代の名僧慧覺尊者信眉が蒙山和尚德異(1232-?)及び普濟尊者慧勤(1320-1376)に關係する禪師の法語四篇に諺解を附した書、いわゆる『四法語』の漢字部分を対象とした校本である。本書の内容に関しては小倉(1940:244-248)を参照されたい。
- ・本書に含まれる法語四篇の名称と本稿で用いる略称は以下の通りである：
①皖山正凝禪師示蒙山法語【皖】；②東山崇藏主送子行脚法語【東】；③蒙山和尚示衆【衆】；④古潭和尚法語【潭】。
- ・本稿が扱う『四法語』の異本は、韓國學文獻研究所(1980)に収められた影印四種と、『大正新脩大藏經』及び『卍續藏經』に収められた排印二種の計六種である。これらを次の三系統に分けることができる：
甲類：孤雲寺本(1517年)；深源寺本(1525年)；氷鉢菴本(1535年)
乙類：松廣寺本(1577年)
丙類：大正藏本；續藏經本
- ・甲、乙類の四本は『蒙山和尚法語略録』の附録、大正藏本は知訥『誠初心學人文』の附録、續藏經本は知訥『眞心直説』の附録として収められている。甲、乙類の四本は内題を『法語』、尾題を『四法語』に作る。大正藏本及び續藏經本では題名がなく、また④「古潭和尚法語」を欠く。本稿では甲類の孤雲寺本を底本として、他本との漢字部分における異同を注記した。
- ・底本では大字で記される漢字部分の一フレーズごとに懸吐し、一段落ごとに○の記号を挟んで小字双行の諺解を附するというスタイルを取る。本稿では懸吐された箇所句点を打ち、【 】内には各篇の略称と段落番号、各段落末尾の()内に底本における出処を記した。

<参考文献>

- 小倉進平 1940. 『増訂朝鮮語学史』, 東京: 刀江書院。
韓國學文獻研究所 1980. 『蒙山和尚法語略録諺解(異本六種)』, ソウル: 亞細亞文化社。
新文豐編審部 1983. 『卍續藏經』第113冊, 台北: 新文豐出版公司。
大正一切經刊行會 1928. 『大正新脩大藏經』第48卷, 東京: 大正新脩大藏經刊行會。

法語慧覺尊者譯訣(1a1)

【皖 00】皖¹山正凝禪師示蒙山法語(1a2)

【皖 01】師。見蒙山。來禮。先自問云。你²。還信得及麼。山。云。若信不及。不到這裏。(1a3-5)

【皖 02】師。云。十分信得。更要持戒。持戒。易得靈驗。若無戒行。如空中。架樓閣。還持戒麼。山。云。見持五戒。(1b1-4)

【皖 03】師。云。此後。只看介³無字。不要思量卜度。不得作有無解會。且莫看經教語錄之類。只單單提介⁴無字。於十二時中四威儀內。須是惺惺。如猫。捕鼠。如雞。抱卵。無令斷續。(1b7-2a4)

【皖 04】未得透徹時。當如老鼠。咬棺材相似。不可改移。(2b1-2)

【皖 05】時復鞭起疑。云。一切含靈。皆有佛性。趙州。因甚。道無。意。作麼生。既有疑時。默默提介⁵無字。迴光自看。(2b4-6)⁶

【皖 06】只這介⁷無字。要識得自己。要識得趙州。要捉敗佛祖。得人憎處。(3a3-4)

【皖 07】但信我。如此說話。驀直做將去。決定有發明時節。斷不誤你⁸。云云。(3a7-3b1)

【東 00】東山崇藏主送子行脚法語(3b4)

【東 01】大凡行脚。須以此道。為懷。不可受現成供養了。等閑過日。(3b5-6)

【東 02】須是將生死二字。釘在額上。十二時中。裂轉面皮。討介⁹分曉。始得。(4a2-3)

【東 03】若祇隨群逐隊。打空過時。他時。閻羅老子。打筭飯錢。莫道我與你¹⁰不說。(4a6-7)

【東 04】若做工夫。須要日日打筭。時時點檢¹¹。自轉鼓起來。至二更。看那裏是不得力處。那裏是打失處。那裏是不打失處。(4b3-5)

【東 05】若如此做將去。定有到家時節。(5a2)

¹ 「皖」：大正藏本は「皚」に作る。

² 「你」：大正藏本は「爾」に、續藏經本は「爾」に作る。

³ 「介」：大正藏本、續藏經本は「箇」に作る。

⁴ 「介」：大正藏本、續藏經本は「箇」に作る。

⁵ 「介」：大正藏本、續藏經本は「箇」に作る。

⁶ 【皖 00-05】：深源寺本は 1a-2b の二葉を欠く。

⁷ 「介」：大正藏本、續藏經本は「箇」に作る。

⁸ 「你」：大正藏本は「爾」に、續藏經本は「爾」に作る。

⁹ 「介」：大正藏本、續藏經本は「箇」に作る。

¹⁰ 「你」：大正藏本は「爾」に、續藏經本は「爾」に作る。

¹¹ 「檢」：大正藏本、續藏經本は「檢」に作る。

- 【東 06】有一般辦道之人。經不看。佛不禮。才¹²上蒲團。便打瞌睡。及至惺來。又且胡思亂想。才¹³下禪床。便與人打雜交。若如此辦道。至彌勒下生。也未入有入手底時節。(5a4-5b1)
- 【東 07】須是猛著精彩。提起一介¹⁴無字。晝三夜三。與他厮睡。不可坐在無事匣¹⁵裏。又不可執在蒲團上死坐。須要活弄。(5b5-7)
- 【東 08】恐雜念。紛飛起時。千萬不可與他厮鬪。轉鬪轉急。(6a4-5)
- 【東 09】多有人。在這裏。不識進退。解免不下。成風成顛。壞了一生。(6a7-6b1)
- 【東 10】須向紛飛起處。輕輕放下。打一介¹⁶轉身下地。行一遭。又上床。開兩眼。捏双拳。豎起脊梁。依前提起。便覺清涼。如一鍋湯。才¹⁷下一杓冷水相似。(6b3-6)
- 【東 11】但如此做工夫。日久月深。自有到家時節。(7a3-4)
- 【東 12】工夫。未得入手。莫生煩惱。恐煩惱魔。入心。若覺省力。不可生歡喜。恐歡喜魔。入心。(7a6-7b1)
- 【東 13】種種病痛。言之不盡。(7b4)
- 【東 14】恐衆中。有老成兄弟辦道者。千萬時時。請益。若無。將祖師。做工夫底言語。看一遍¹⁸。如親見相似。(7b5-7)
- 【東 15】而今此道。難得其人。千萬向前。望汝。早早打破漆桶。歸來。為我揩背。至囑至囑。(8a3-5)
- 【衆 00】蒙山和尚示衆¹⁹(9a5)
- 【衆 01】若有來此。同甘寂寥者。捨此世緣。除去執著顛倒。真實為生死大事。肯順菴²⁰中規矩。截斷人事。隨緣受用。除三更外。不許睡眠。不許出街。不許赴請。未有發明。不許看讀。非公界請。不許閱經。(9a6-9b3)
- 【衆 02】如法下三年工夫。若不見性通宗。山僧。替你²¹。入地獄。(10a2-3)
- 【潭 00】古潭和尚法語(10a6)
- 【潭 01】若欲參禪。不用多言。趙州無字。念念相連。行住坐臥。相對目前。奮金剛志。一念萬年。迴光返照。察而復觀。昏沉散亂。盡力加鞭。千磨萬鍊。

¹² 「才」：大正藏本、續藏經本は「纔」に作る。

¹³ 「才」：大正藏本、續藏經本は「纔」に作る。

¹⁴ 「介」：大正藏本、續藏經本は「箇」に作る。

¹⁵ 「匣」：大正藏本、續藏經本は「甲」に作る。

¹⁶ 「介」：大正藏本、續藏經本は「箇」に作る。

¹⁷ 「才」：大正藏本、續藏經本は「攪」に作る。

¹⁸ 「遍」：大正藏本、續藏經本は「徧」に作る。

¹⁹ 「蒙山和尚示衆」：大正藏本、續藏經本は「蒙山和尚示衆語」に作る。

²⁰ 「菴」：大正藏本、續藏經本は「庵」に作る。

²¹ 「你」：大正藏本は「爾」に、續藏經本は「爾」に作る。

轉轉新鮮。日久月深。密密綿綿。不舉自舉²²。亦如流泉。心空境寂。快樂安然。(10a7-10b5)

【潭 02】善惡魔來。莫懼莫歡。心生憎愛。失正成顛。立志如山。安心似海。大智如日。普照三千。(11a5-7)

【潭 03】迷雲。散盡。萬里青天。中秋寶月。湛徹澄源。(11b4-5)

【潭 04】虛空。發焰。海底。生烟。驀然嗑著。打破重玄。(11b7-12a1)

【潭 05】祖師公案。一串。都穿。諸佛妙理。無不周圓。(12a3-4)

【潭 06】到伊麼時。早訪高玄。機味。完轉。無正無偏。明師。許爾。再入林巒。茅菴土洞。苦樂。隨緣。無為蕩蕩。性若白蓮。(12a6-12b1)

【潭 07】時至出山。駕無底船。隨流得妙。廣度人天。俱登覺岸。同證金仙。(12b5-6)

四法語終²³(13a3)

<付記>

本稿は、中国語東アジア諸語研究会第8回例会(2004年6月6日、青山学院大学)における発表『蒙山法語』・『四法語』の語彙と語法の際に配布した資料に基づく。

²² 「自舉」：松廣寺本はこの二字を欠く。

²³ 「四法語終」：氷鉢菴本は「終」を欠く。松廣寺本はこの四字を欠く。